



## 就任のご挨拶

「真理と愛に生きる」—本学の伝統を受け継いで—



学長 小野 礼子

前学長の岡村祥子先生の後任として昨年4月に学長に就任いたしました。私も本学の同窓生で、文学部英文学科第9回生です。学生時代は、Sr.高木節子元学長、Sr.本多正子、Sr.窪温子、岡村先生にご指導をいただきました。そして、卒業して16年後の1992年に教員として再び本学にお世話になり、今日に至っております。

学生時代には、本学の教員になることも、ましてや学長になることなど予想すらしておりませんでした。けれども、学長としての私の原点はまぎれもなく本学です。私は小・中・高も神戸海星でしたので、必死に受験勉強をした経験がありませんでした。そのような私に全力を尽くすことの意味を教えてください、私がそれまで使っていなかった能力を引き出し、伸ばしてくださったのが、厳しくも温かく、いつも熱心に指導してくださった本学の先生方でした。本学卒業後10年以上経ってからアメリカの大学院に進学したのですが、厳しい大学院時代を乗り越えることができたのは、本学で徹底的に英語を鍛えていただき、学問に対して全力を尽くして臨む姿勢をしっかりと養っていただいたからです。本当に感謝してもしきれないほどです。その感謝の気持ちを本学の教育に反映させたいと思っております。そして、本学の設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会の創立者 Sr.マリ・ド・ラ・バ

シオンの「真理と愛に生きる」という精神を受け継ぎ、「真理と愛に生きるというキリスト教的価値観に基づき、人を支え、社会に奉仕する女性の育成を目指す」という本学の建学の精神に則り、私の学生時代に先生方がなさってくださったように、学生たち一人ひとりに真摯に向き合い、時に厳しく、常に愛をもって教育を行っていきたいと思っております。

学長としてまだまだ足りないところだけですが、偶然にも深井佳世子会長及び東條町子副会長が同級生で、大変心強く思っております。同窓会の役員の方々、学生時代・教員時代にご指導をいただいた先生方、学生時代をともに過ごした英文学科・仏文学科・短期大学家政科の同窓生の方々、教員としてお世話になっている先輩や後輩の同窓生の先生方、教え子の方々をはじめ、すべての同窓会の方々を支えていただきながら、微力ではございますが、本学及び同窓会の発展のために全力を尽くしたいと思っております。どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に同窓会の皆様にお願いがございます。大学祭やクリスマスキャロル等の行事はもちろん、普段の日にも本学にお気軽にお立ち寄りください。卒業生が訪ねてきてくださるのは本当にうれしいことです。皆様のお越しを心からお待ちしております。



- |    |         |                        |
|----|---------|------------------------|
| 4面 | 活躍する卒業生 | ～「神戸こどもワクワク食堂」をはじめました～ |
| 5面 | 大学は今…   | ～ イタリアへのキリスト教研修旅行～     |
| 8面 | 楽しきつどい  | ～ 関東地区会ご案内&同窓会便り～      |

## 同窓会顧問に就任して

前学長 岡村 祥子



2017年6月の総会からSr.吉村美枝子先生の後を継いで顧問に就任いたしました。神戸海星女子学院大学・短期大学の同窓会は、同窓生の皆様のご尽力により50年を迎えようとしています。「マリアの宣教者フランシスコ修道会」のシスター方によって育まれた海星の伝統は、あたたかさの中にも凛とした姿勢、何よりも人々に仕える精神であり、現代まで引き継がれています。この伝統を大切にしながら、激動の現代社会の中で注意深く新しい波に目を向け変化していくことが要求されます。

私自身は昨年8年間の学長の任期を終えましたが、教員時代を含めて40年以上海星にお世話になりました。大学のさまざまな時期に立ち合いましたが、最後の8年間はまさに激動の変革の時期でした。21世紀に入って「大学とは」という問いかけがあり、大学教育の根本的な(パラダイム)転換があり、一人ずつの学生が主体的に学び、予測困難な社会を切り開く自立した大人に成長するための教育方法が要求され、試行錯誤の連続でした。

このように、変化の時代にあって「変えるべきものは変え、変えてはならないものは変えない」判断力と勇気を持って、同窓生の皆様とご一緒に神戸海星女子学院大学を支えながら、歩んで行きたいと願っています。

現在は法人海星女子学院のカトリックセンター長の仕事にもつき、ミッションスクールとしてキリスト教的価値観の大切さを伝えていきたいと思っています。

## 第50回同窓会記念総会を迎えるにあたって

前同窓会顧問 Sr.吉村 美枝子



9,355名の会員からなり、立派に成長した海星青谷会を想う時、感無量でございます。初代会長 中村和子様のご尽力で、もと短大校舎の音楽室で開かれた初期の総会には、数人の先生方と少数の短大卒業生が出席し、会長の報告の後、茶菓をいただきながら語り合うささやかな集いでした。その後、代々の会長と役員の方々の賢明で献身的なご協力のもと基礎作りが進められ、大学の卒業生も加わって賑やかになり、幹事学年の方々の心のこもった準備のもと名実ともに充実し、青谷会は海星ファミリーの出会いと喜びの場となってまいりました。

私はこの長い年月の流れの中で、海星ならではの一つの出会いの文化が形成されてきたように感じています。真理と愛に生きることをモットーに培われたキリスト教的教育環境の中で、皆様がひたむきに学び、良き師、良き友との交わりを通して切磋琢磨され、社会に巣立たれた時、入学前とどこか違っているご自分に気づかれたでしょうか。皆様の中で光っている細やかで温かい他者への心遣い、礼儀正しさ、良識をもって判断し行動する姿、誠実な交友関係、貧しい人々への欠かさぬ援助等々、一味違った社会人に成長されているのを感じます。皆様の人生に、ある影響を残した母校海星を忘れず、同窓生の絆を大切にしてお幸せな日々をお送りください。卒業生の皆様のため、いつも祈っています。